

令和6年度
埼玉県職員仕事紹介
オンラインセミナー

デジタルで変わる埼玉県の未来

～埼玉県のデジタル化の取組やDXで目指す将来像のご紹介～

令和6年12月18日

埼玉県
企画財政部
行政・デジタル改革課

はじめに

企画財政部とは

企画財政部

政策・
財務局

行政・デジ
タル改革局

地域経営局

企
画
総
務
課

東
京
事
務
所

計
画
調
整
課

財
政
課

行
政
・
デ
ジ
タ
ル
改
革
タ
スク
ル

情
報
シ
ス
テ
ム
課

地
域
政
策
課

地
域
振
興
セ
ン
タ
ー

市
町
村
課

土
地
水
政
策
課

交
通
政
策
課

主に活躍している職種

一般行政/一般事務、DX

主な業務

県の施策の総合的な企画立案
議会及び予算
行政改革の推進
情報通信技術の総合的企画
市町村や地域の振興
土地利用及び水利用に係る企画調整
交通体系の整備

行政・デジタル改革課

職場風景



主な業務

行政のデジタル化や社会全体のDXの推進
県民ニーズを踏まえた事業の実施に必要な改革
民間企業等との連携

DX推進担当では…

庁内DXプロジェクトの統括
DXのためのシステム・サービスの構築・導入
デジタル技術を活かした業務効率化支援
AIなど新技術の庁内ルール作り



デジタル技術を活かした
**業務改革の
旗振り役**

DXについて

DXとは？



とは？

DXとは？

Digital Transformation

デジタルトランスフォーメーション = デジタルを駆使し、社会を変革させること

DXとは？

DXへの3ステップ



第2ステップ
デジタルイゼーション 県民・事業者
サービスの向上



第1ステップ
デジタイゼーション
(アナログからデジタルへ)

第3ステップ
DX

DXの
基礎固め

これからの社会課題への対応

新型ウイルス、大規模地震等の
災害の頻発

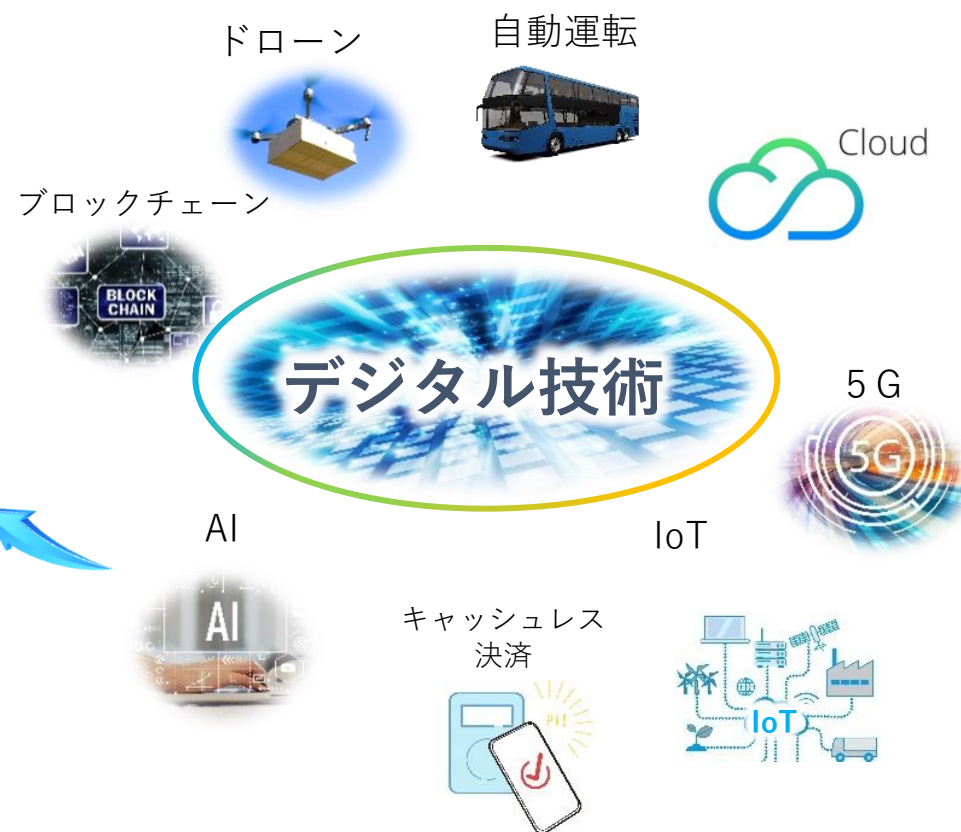
複雑化

急激な人口減少・高齢化

デジタル技術の進化による
産業構造の変化等デジタル技術
+
社会への浸透

社会課題の解決

デジタル技術・インフラの進展



複雑化する社会課題の解決にはデジタル技術が社会へ浸透し社会全体のDXが必要



埼玉県のデジタル化の取組

DXへの3ステップ

DXへの3ステップ



第3ステップ
DX

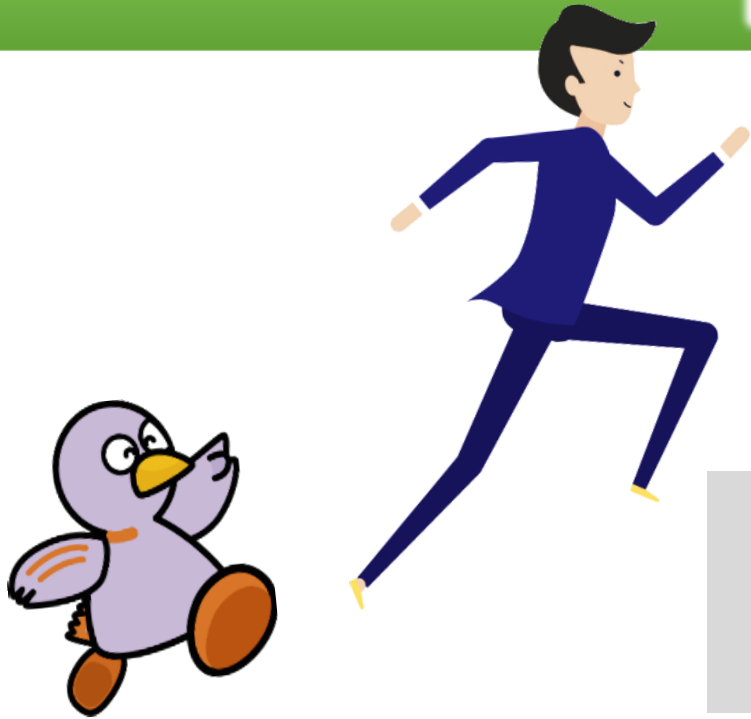
第2ステップ
デジタルイゼーション

県民・事業者
サービスの向上

第1ステップ
デジタルイゼーション（アナログからデジタルへ）

DXの
基礎固め

DXへの3ステップ



第3ステップ
D X

第2ステップ
デジタルイゼーション

県民・事業者
サービスの向上

第1ステップ
デジタルイゼーション（アナログからデジタルへ）

D Xの
基礎固め

庁内業務のペーパーレス化

説明・会議・打合せのペーパーレス化

- ・ 幹部への説明や会議・打合せ時の資料について、ペーパーレスを推進
- ・ タブレット端末を用いたペーパーレス会議システム等での会議や、各職員がノートパソコンを持ち寄り、共有ファイルへアクセスして行う会議など、シーンに合わせて運用
- ・ コロナ禍を期に、参加者全員がWEB会議で行う会議・打合せや、WEB会議と現場の両方で行うハイブリッドでの会議が盛んに。

Before



After



令和5年度
リモート会議の活用率

59 %

導入による効果

資料準備時間の短縮

印刷コストの削減

テレワークの促進

ペーパーレスにより効率化やコスト削減だけでなくテレワーク促進にも寄与

庁内業務のペーパーレス化

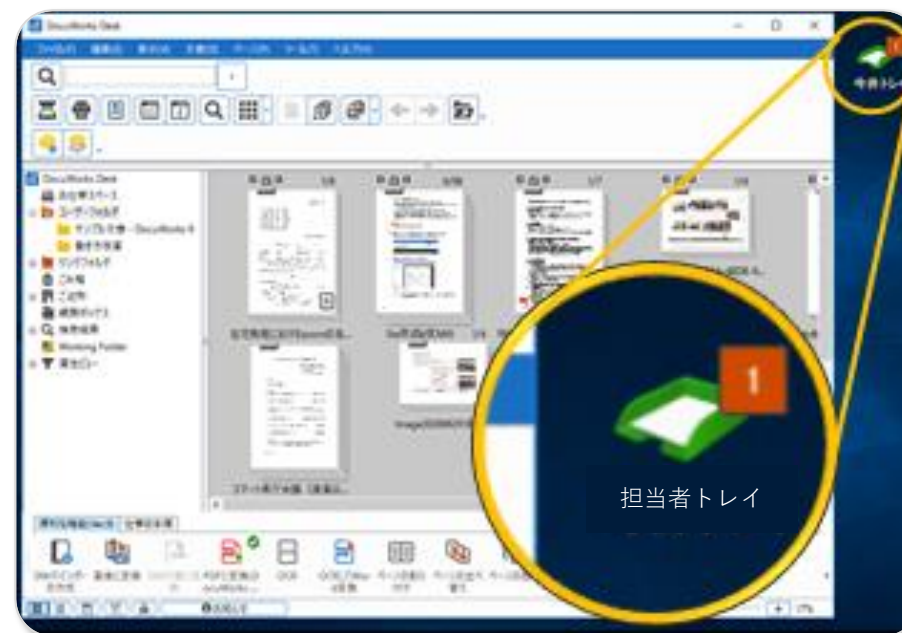
決裁のペーパーレス化

紙による決裁を完全ペーパーレス化するため、ペーパーレス化推進モデルとなっている所属において、紙の利便性をデジタルにおいても実現できるツールを導入。多数のファイルを一度に開くことができたり、チェックすべきポイントをマーカーするなど、決裁者の利便性を損ねずに紙以上の利便性を確保。

Before



After



導入による効果

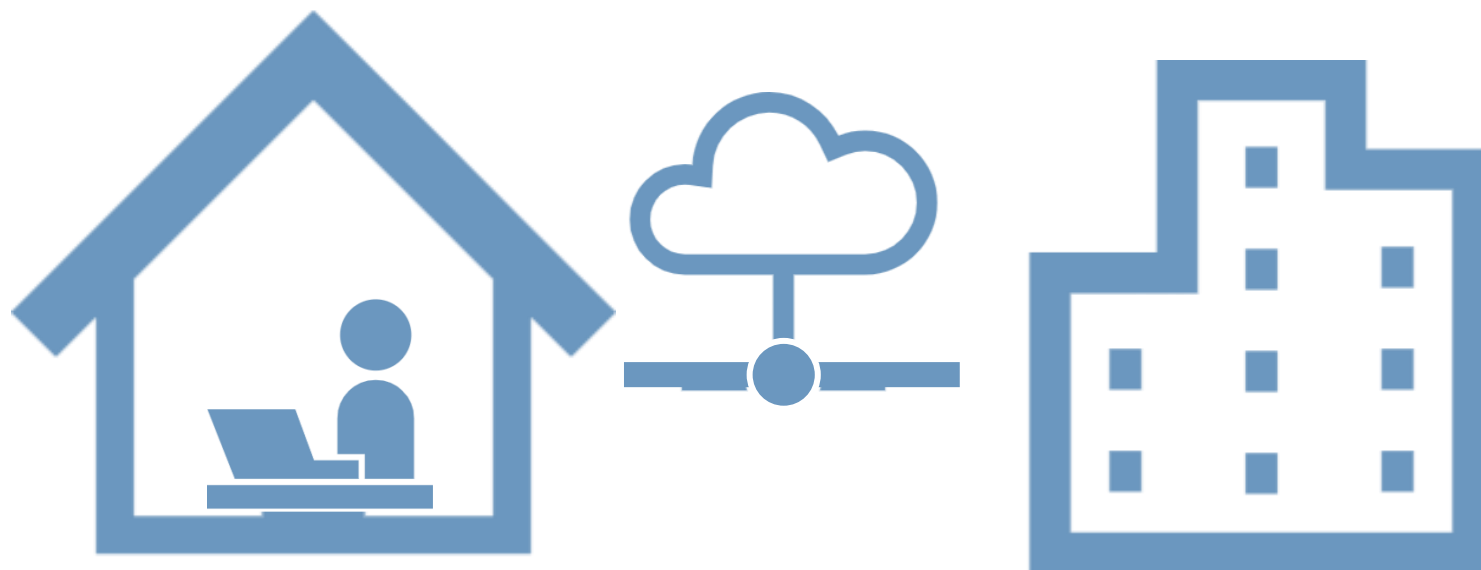
印刷コストの削減
テレワークの促進



デジタルツールの活用によりほとんどの決裁のペーパーレス化を実現

テレワークの環境整備・推進

テレワークのハード面での整備



自宅と職場をつなぐ様々なツールを導入

ハード面での整備

- ・ リモートデスクトップサービス
 - ・ WEBコミュニケーションツール
- など環境の整備

導入による効果

資料準備時間の短縮
印刷コストの削減
テレワークの促進

家でも職場でも好きな場所を選んで働ける「ハイブリッドワーク」の実現

執務室のフリーアドレス化・ワークラウンジの整備

フリーアドレス化



※現在の行政・デジタル改革課執務室

複数の課で執務室の
フリーアドレス化を実施
毎日好きな座席で仕事ができる

カフェのような
リラックス感ある雰囲気
職員が自由に使用
できるワークスペース

※本庁舎地下1階に設置されたワークラウンジスペース



集中して作業したり、
雰囲気を変えて
ミーティングする
など細かなニーズに対応

ワークラウンジの整備

ペーパーレス化の推進とともに場所にとらわれない新しいワークスタイルを実現

DXへの3ステップ



第3ステップ
DX

第2ステップ
デジタルイゼーション

県民・事業者
サービスの向上

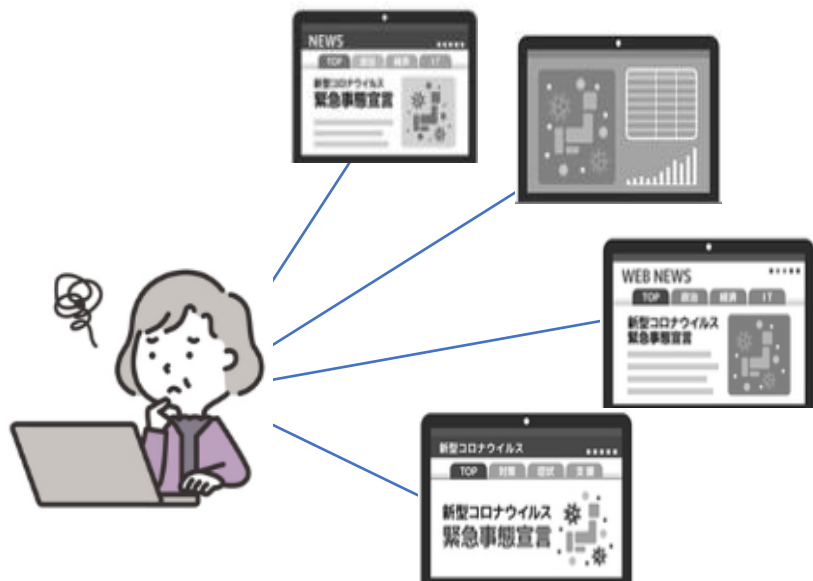
第1ステップ
アナログからデジタルへ

DXの
基礎固め

全庁GIS基盤整備による地理情報の有効活用

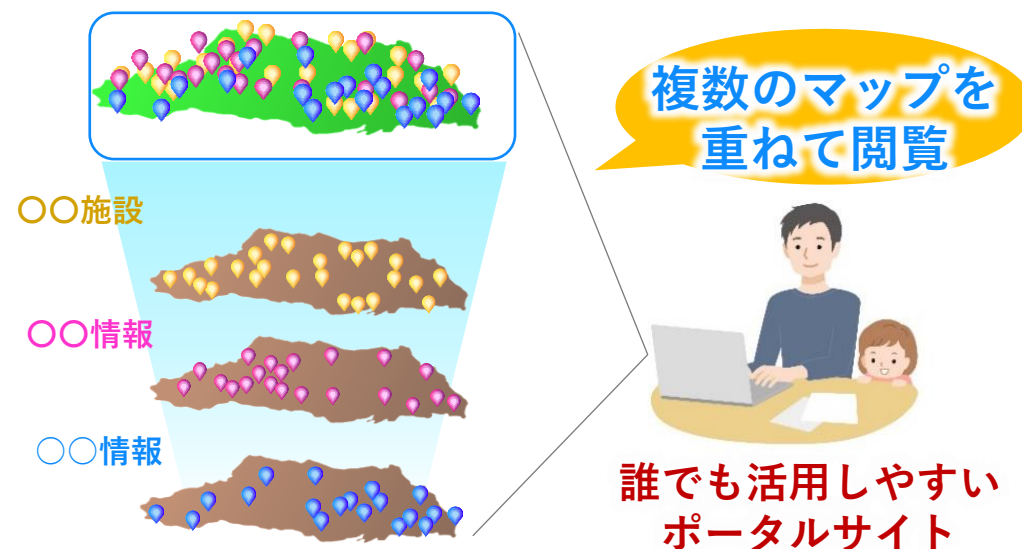
Before

課所ごとに地理情報が分散

マップを探しにくく
重ね合わせもできない

After

全庁の地理情報を集約し、一元的に発信

マップを探しやすく、重ね合わせ等、
データの有効活用ができるようになる

申請手続きのオンライン化

ワンスオンリーの実現

Before 申請のみ電子化し、事前相談や通知はアナログ
申請の都度、同じ情報を毎回入力・提出する必要がある

After 申請の前工程から後工程までを全てオンライン完結させ、
申請内容のデータベース化させる（ワンスオンリー化）

申請手続の全工程
オンライン化

従来のオンライン化の範囲

①事前相談
(チャットの活用)

②申請受付

③受付後処理
(内容確認・通知)

オンライン申請
(ワンスオンリーで申請が可能)



デジタル通知



申請内容のデータベース化



●「ワンスオンリー」とは

何度か申請をする際、
一度入力した情報を2度目の申請からは
入れなくて済むようにする仕組み

システム導入効果

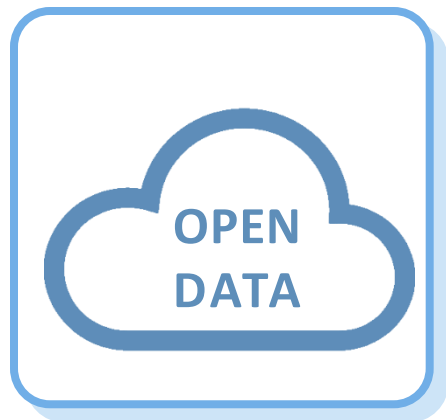
●事前相談のオンライン化

- ・窓口に行かなくてもいつでも何度でも相談
- ・相談の記録が残り、情報共有が進む

●申請内容の自動データベース化

- ・申請内容を1件1件管理台帳に入力する手間を省力化
- ・2回目以降の申請時に、過去の申請情報を自動引用することで、同じ情報の再度入力が必要（ワンスオンリー化）

オープンデータの整備

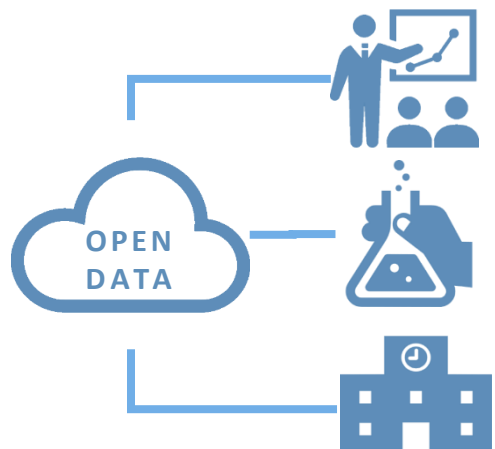


オープンデータとは、行政や企業などが保有するデータのうち

- **誰もが無料で**利用可能
- **二次利用が自由**
- コンピュータが認識しやすい**機械判読性の高いデータ**

として一般に（特にインターネット上で）公開されているデータ

新たな価値の創出



誰もがアクセスしやすい形で公開し、企業や研究機関にとって活用しやすいデータを整備することで、学術研究に役立てたり、新たなサービスを作る助けになります

行政機関の透明化



オープンデータを積極的に公開することで、国や自治体の活動を分析できるようになります
これにより行政機関の取り組みの透明性を高め、行政機関に対する信頼性を向上させます

積極的なオープンデータ公開による官民連携を目指す

TX（タスク・トランスフォーメーション）の推進

TXの推進

TXとは、現在の仕事をデジタルに任せられるタスクと人にしかできない業務に分け、職員の力を創造的な業務や丁寧な対人サービスに振り向けるとともに、生み出した時間をスキルアップに充て、活用する取組



例）会議業務のプロセス



機械に任せるタスク



記録・転記・集計など
ミスなく迅速に処理！

ノーコードツール 生成AI
音声認識AI RPA GIS
web会議 ドローン・カメラ

人が担う業務

企画立案・相談など
創造的でやりがいある
仕事に専念！



アップスキリング

TXで生み出した
時間を使って
スキルアップ



生産性と
県民サービスの
向上



ノーコードツールの活用

ノーコードツールの活用

Before

- ・ 職員が自力でシステム開発をすることができず、デジタル化は委託等による他力本願となっている
- ・ デジタル化は「自分には無理」という先入観



After ノーコードツールの導入

プログラミングの知識がなくても、業務改善アプリ（データベース）を簡単に作れる **ノーコードツール**をトライアルで導入

ノーコードツールでできること

- ・ 共同編集ができる
- ・ 登録したデータをリアルタイムで共有できる
- ・ ツールの中でコミュニケーションが取れる
- ・ グラフ化や集計などのデータ分析

活用例：照会作業

Before

メールで回答様式を展開、
回答をコピー＆ペーストで集計



貼付ミス

提出漏れ

作業が煩雑



After

回答者が直接入力 → 集計作業が不要

直接入力
(正確性向上)

即時共有
(判断の迅速化)

データ分析・連携
(業務の高度化)



自力で改善する成功体験を積み、優れたアプリやノウハウ、業務データを全庁に横展開

音声テキスト化システム

音声テキスト化システムの活用

Before

- ・ 会議や打ち合わせの録音を聞いて文字起こしをしたり、記憶を頼りに書き起こしたりしていました。
- ・ 時には、**文字起こしに5～6時間かかる**ことも…



After

- ・ 音声テキスト化システムの導入によって文字起こしを自動化
- ・ 文字起こしの負担がなくなり、他の業務に集中できる

例えば…



会議等の議事録作成



県民からの
相談対応メモの作成

文字起こし作業をシステム化することで業務効率化を実現

生成AIの業務への活用

生成AIの活用

生成AIとは？



生成AIは、自動で新たなデータやコンテンツを創作する AI 様々な業務改善が見込まれる。ChatGPTやGeminiなどが有名。



生成物の真偽や著作権、入力データの取り扱いなどリスクも存在



埼玉県の生成AI活用方針

令和6年度から県専用の生成AIを導入

活用業務

- 文章案の校正
- アンケートの集計結果の分析
- Excelなどの関数・マクロコードの作成
- キャッチコピーや広報文案の作成

案文などの作成による**業務効率化**のほか、新しい視点でのアイデア出しなどにより**業務の質も向上**

安全な環境で生成AIを使いながら、業務効率化・質の向上を実現

課題

- ・県庁内でデジタル人材が足りていない
- ・事務処理をデジタルで改善したいけれど、身近に聞ける人がいない
- ・デジタルについて学びたいが、何から学べばよいかわからない



DigiCafe

人脈づくりができる場

- ・デジカフェチャットでの情報交換

新しい技術を学び共有する場

- ・イベントの開催
 - ☞デジカフェランチタイム勉強会
 - ☞都庁サテライトオフィス体験会

自己研鑽する場

- ・デジカフェ勉強部屋
(ITパスポートの過去問題配信)



ランチタイムミーティングの様子

職員のデジタルスキルを向上させ、個々の職員がDXを実現していく風土づくりを行っていく

DXへの3ステップ



第3ステップ D X

第2ステップ デジタルイゼーション

県民・事業者
サービスの向上

第1ステップ アナログからデジタルへ

D X の
基礎固め

「埼玉県デジタルトランスフォーメーション推進計画」の策定

計画名称

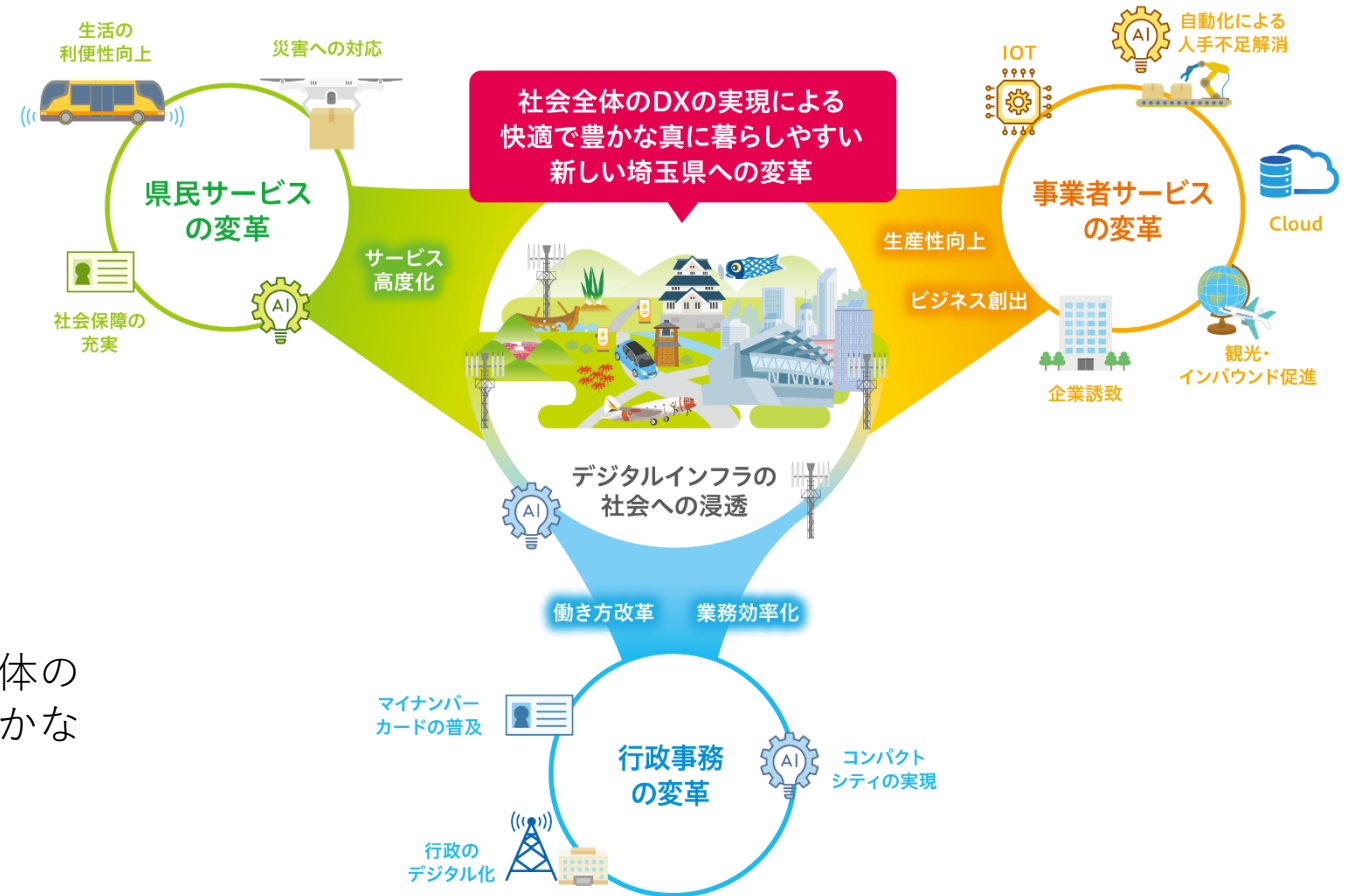
埼玉県デジタルトランスフォーメーション推進計画
（第2期 R6～R8）

計画期間

令和6年4月から令和9年3月末までの3年間

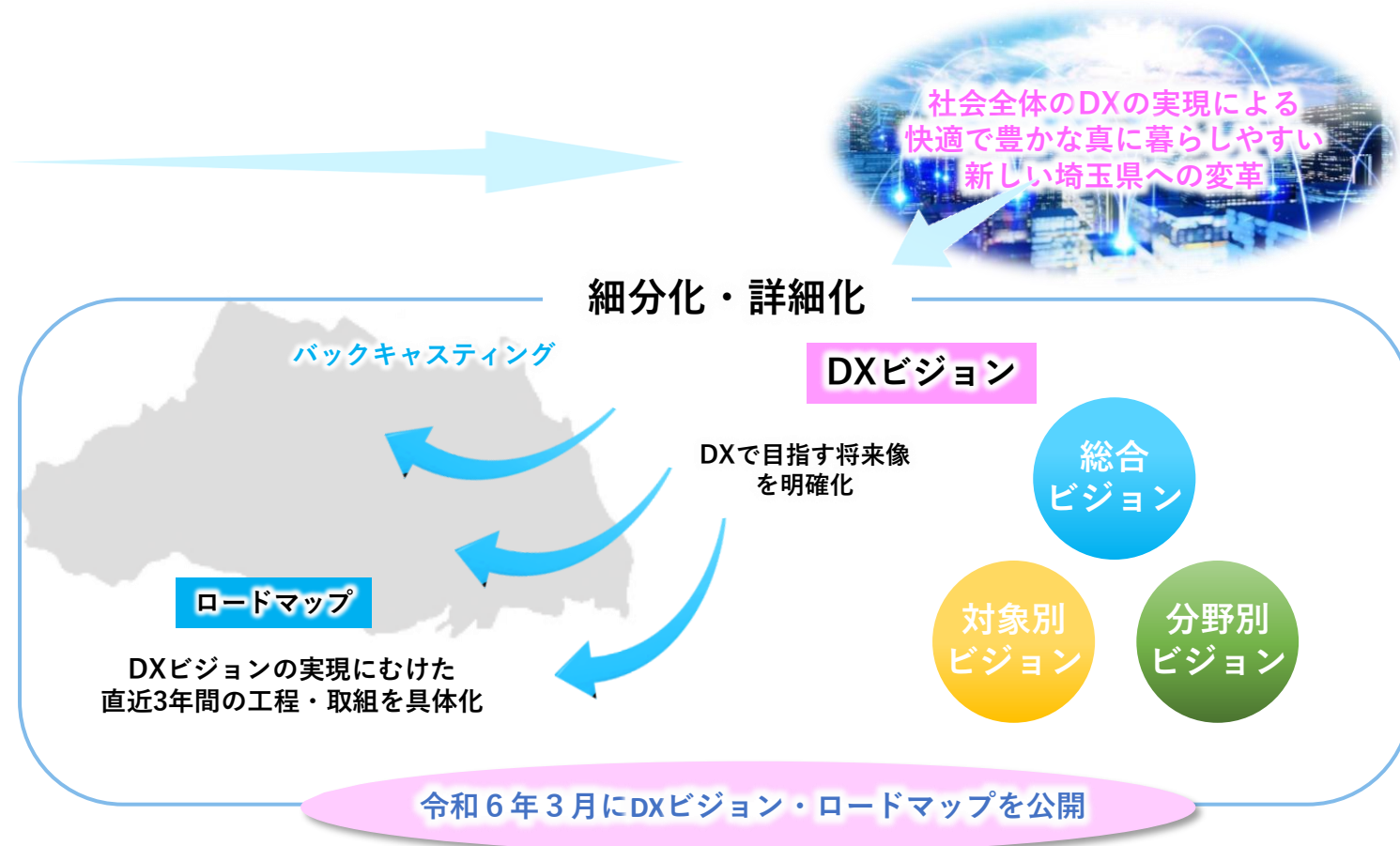
目的

埼玉県におけるデジタル化を強力に推進し、社会全体のデジタルトランスフォーメーションによる快適で豊かな真に暮らしやすい新しい埼玉県への変革を目指す



DXを推進する上での基本的な方針や取り組むべき施策を定める計画を策定

埼玉県DX推進計画 (方針・施策)



2021

2024

...

2031

DXで目指す将来像を「DXビジョン」として設定するとともに、実現に向けた直近3年間の工程を「ロードマップ」として策定。令和6年3月に県ホームページで公開

(1)DXビジョンの分類

行政サービスの対象や分野は多岐にわたることから、将来像の実現に向けた取組を体系的かつ計画的に進めていくため、対象・分野など3つの異なる視点からそれぞれの将来像と取組を明確化し、情報を共有しながら相互の連携・調整を図ることとしました。

- 県全体で共通に取り組むもの 総合ビジョン
- 県が行う事務の対象別に区分したもの 3つの対象別ビジョン
- 政策分野別に区分したもの 9つの分野別ビジョン

(2)DXビジョンの内容一覧

総合ビジョン	- デジタルでつながる ～県民・事業者・行政がデジタルでつながる便利で暮らしやすい埼玉県へ～ - 官民データの活用 ～様々なデータを活用し、高度なサービスを提供できる埼玉県へ～ - サイバー空間とフィジカル空間の融合 ～新たな空間で活動やビジネスのチャンスが広がる埼玉県へ～ - デジタルインフラの確立 ～安全で快適なサービスを支えるデジタル基盤が確立した埼玉県へ～	
	県民サービス	もっと便利で、安心・安全に暮らしやすい県民サービスが提供される埼玉県へ
	事業者サービス	デジタルの力でビジネスを進化・効率化できる埼玉県へ
	行政事務	執務環境の効率化と次世代ワークスタイルの実現によるハイクオリティな埼玉県庁へ



(2)DXビジョンの内容一覧

分野別ビジョン	防災	デジタル技術を活用し、全ての県民の安心・安全を支える埼玉県へ
	環境	デジタル技術の活用によりカーボンニュートラル・サーキュラーエコノミー・ネイチャーポジティブの構築を進める埼玉県へ
	福祉	- AI等の活用により福祉現場の人材確保・定着とサービスの質を向上させる埼玉県へ - サイバー空間とフィジカル空間が繋がり、障害の有無にかかわらず誰もが活躍できる埼玉県へ - デジタルの活用により子供の命が守られ、誰もが希望を持てる埼玉県へ
	保健医療	- ビッグデータの活用により健康増進への行動変容を促し、誰もが健康な埼玉県へ - デジタルの活用により誰もが安心して元気に暮らせる埼玉県へ
	産業	デジタル技術の活用により、企業の稼げる力を高め、地域経済が活性化する埼玉県へ
	農業・林業	デジタル技術の活用により、儲かる農林業を創造する埼玉県へ
	都市整備・建設・公共インフラ	スマートなインフラに支えられた魅力的で暮らしやすい埼玉県へ
	教育	- デジタル技術の活用により、未来を切り拓き、社会の創り手となる人材を育成する埼玉県へ - 人生100年時代の生涯を通じた学びを実現し、継続的に活躍できる埼玉県へ
	安心・安全	デジタル技術の活用を通じて安心・安全を実現できる埼玉県へ

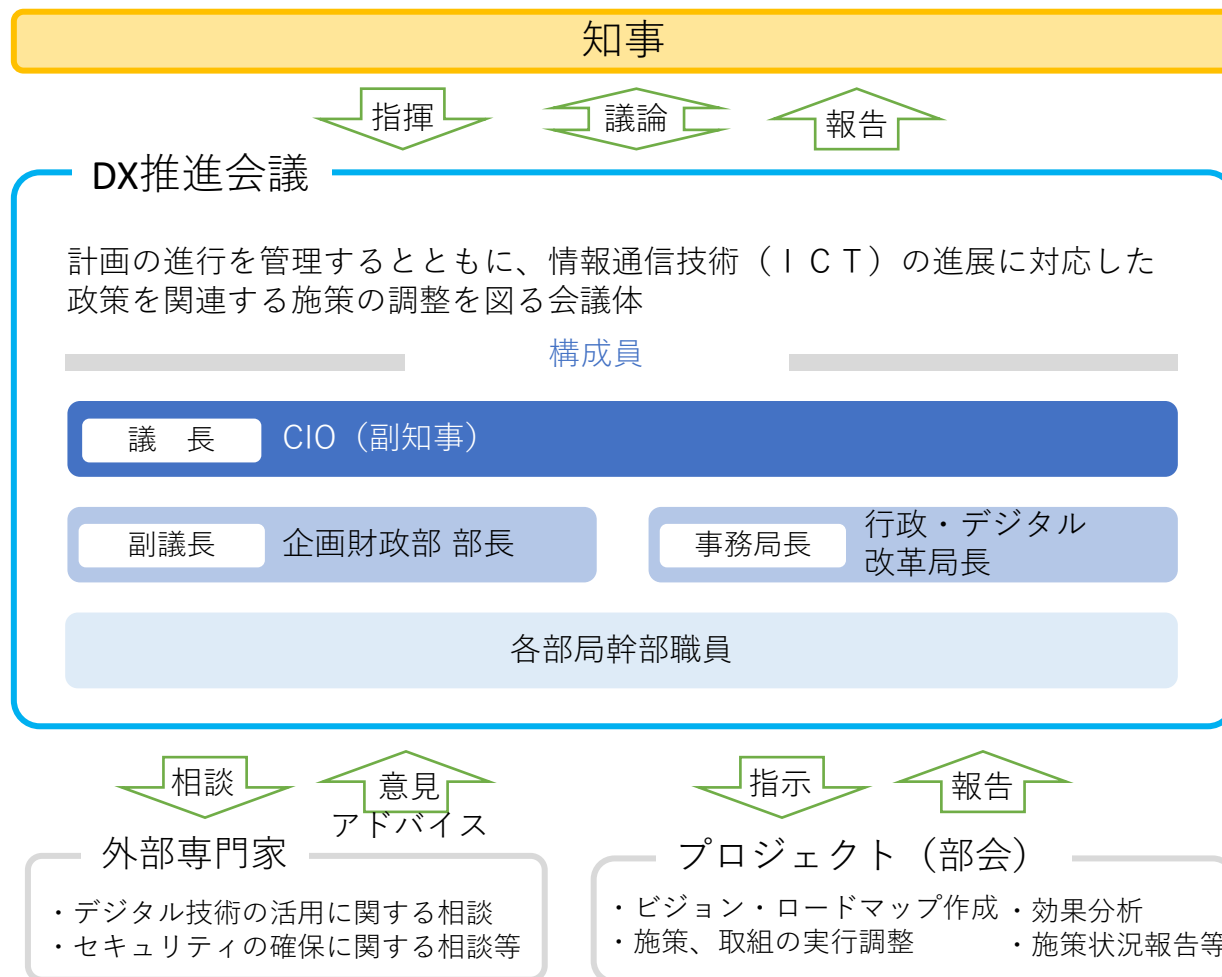


DXの推進にあたってのポイント

(1) トップダウンによる強力な計画の推進

知事自らが旗振り役となって職員の意識を高めるとともに、DX実現に向けた方向性を指示

DX推進体制



トップ自らのDX方針プレゼンテーション

令和5年4月に開催したDX推進会議において、DX推進に向けた実行方針等を知事自ら示すとともに、具体的な実行に際しての考え方についてプレゼンテーションを実施。



DX推進会議での知事プレゼンテーション風景
(令和5年4月27日)

令和6年度からはDX推進会議を
チャットグループによる会議へ移行
(会議の在り方も変革)

(2) 組織横断的な連携と実行

組織の横串を刺した連携と実行を図るため、組織横断型のDXプロジェクトによりDXを推進

DXプロジェクト構成

- プロジェクトマネージャー
- プロジェクトリーダー

統括・部局ユニット（17ユニット）

- ユニットリーダー
- ユニットサブリーダー

部内の各所属

- コアメンバー（TX推進リーダー）
- メンバー

令和5年度 443人
令和6年度 893人
が、プロジェクトに参画

ユニットリーダー会議による連携

各ユニットのリーダーを中心とした会議を定期開催し、検討状況や成果物の共有するとともに、進め方や課題等について意見交換やディスカッションを実施。



Zoom等を活用したプロジェクト全体での情報共有

プロジェクトの会議や打合せは、全てペーパーレスで行い、全庁のファイルサーバ（BOX）で共有。また、Zoomによりリーダーだけでなく、適宜関係者が参加し、情報共有を効率的に実施。

TX推進リーダー育成プログラムの実施

R6年度から新たに、デジタル化に関する知識や業務プロセスを変革手法等を学び、TXの実践スキルを身に着けることを目的とした「TX推進リーダー育成プログラム」を開始。

(3) ビジョン及びロードマップの明確化

DXで目指すべき将来像・ステップを誰もが共通認識できるようにビジョン・ロードマップを明確化し共有

ビジョンの明確化と共有により・・・

- 目的や向かうべき行き先（どこへ）が明確化される
- そこへ向かう動機（なぜ）が明確化される
- 具体的なイメージが共有され、共通認識できる

ロードマップ（工程・取組・KPI）の明確化と共有により・・・

- ビジョン実現に向けて、今やるべきことが明確化される
- 目に見える成果や目標により、モチベーションが維持される
- 実現に向けた課題が顕在化し早期に解決への対処ができる





おわりに





「D（デジタル）」ではなく 「X（トランスフォーム）」



埼玉県企画財政部行政・デジタル改革課
TEL 048-830-2121
E-mail a2440-13@pref.saitama.lg.jp